

基礎の唯識

石田一裕

唯識入門一步前

－仏教における心とは何か？－

■ 心を表す言葉

- － 心、意識、気持ち、認識、意思、心理 etc...

■ 心とは何か？

ものごとは心にもとづき、心を主とし、心によってつくり出される。もしも汚れた心で話したり行ったりするならば、苦しみはその人につき従う。－車をひく（牛）の足跡に車輪がついていくように。

ダンマパダ第一偈

- 仏教は初期から心の大切さを説いている。
- それでは心とは？と問われた時になんと答えるか？
- 心はつかみどころのないもの？それとも確かにあるもの？

仏教の代表的な心：心・意・識

■仏教の代表的な心

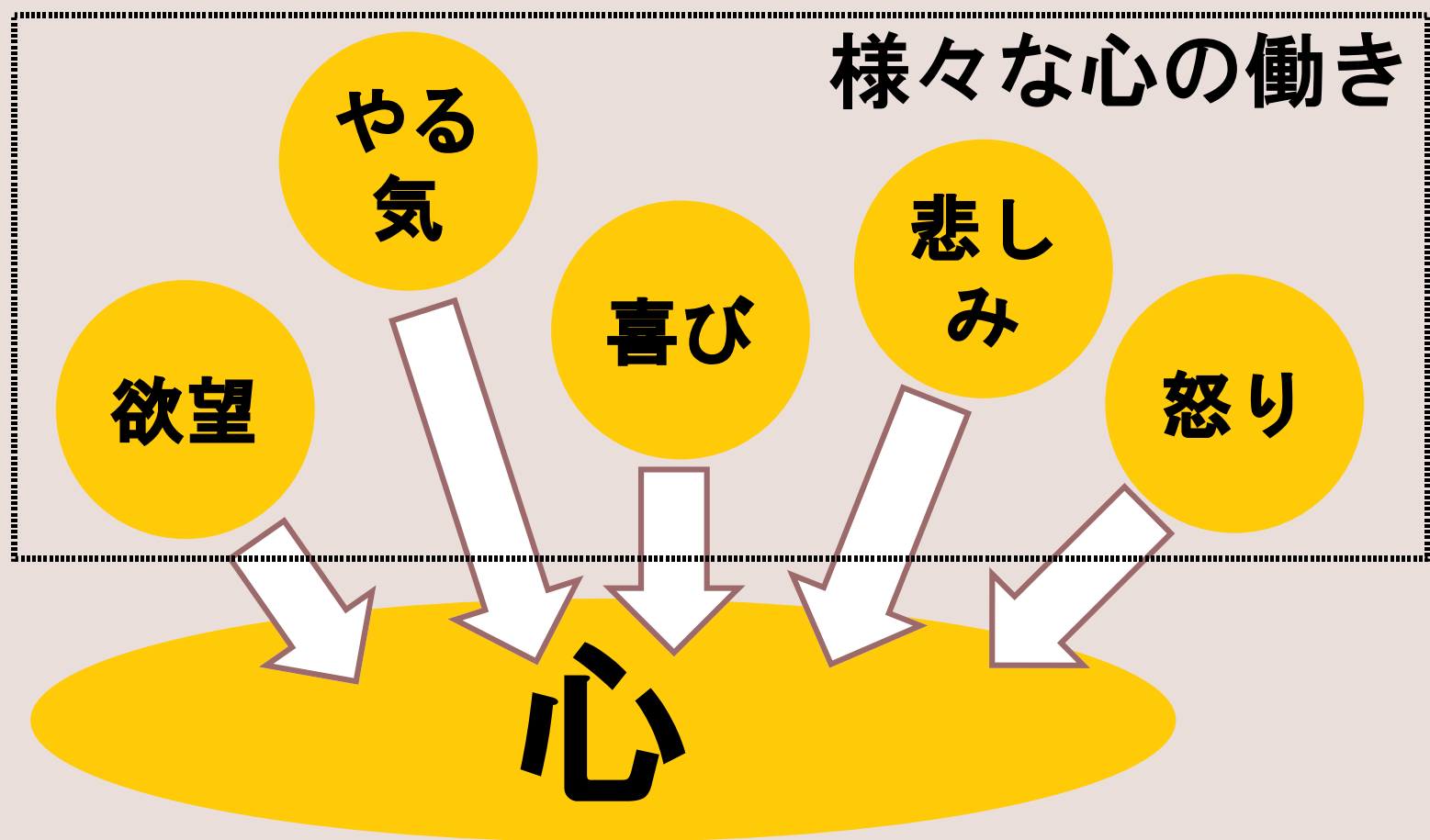
→心・意・識

心→こころ。心の収集能力に着目

意→考え。心の思考能力に着目

識→認識。心の識別能力に着目

心：様々なものを集める場所

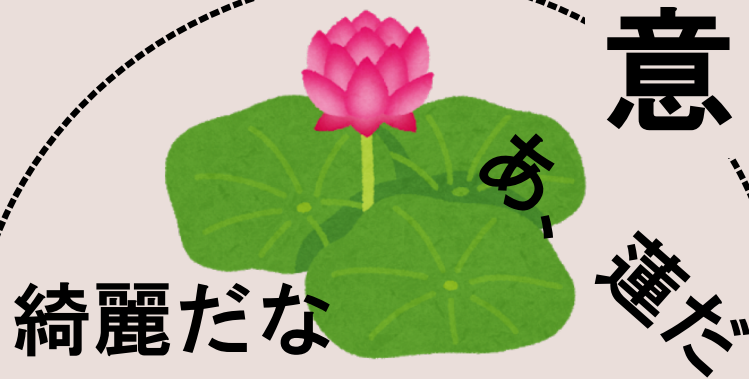


心は様々な心の働きを
集める場所

意：考える心

見たものや聞いた音について
様々な判断を下す。

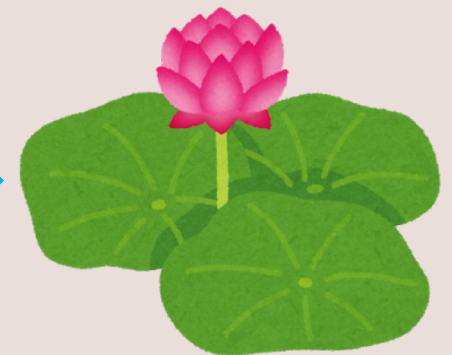
意



どうすれば花が
つくのかな



見る



識：物事の識別

ミ・レ・シ

いい匂い



赤い

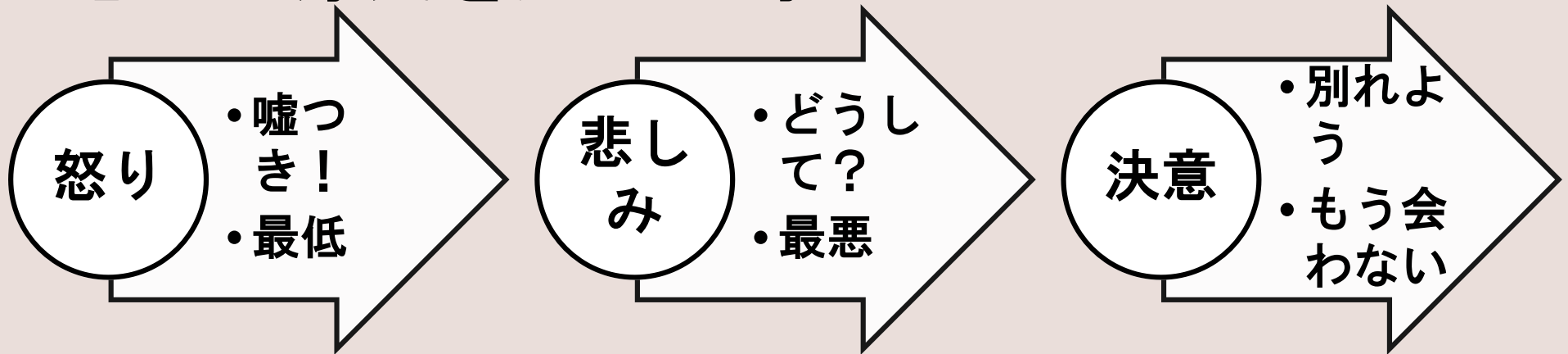


認識の特徴は目にしたものの色や形、聞いたものの音程、嗅いだものの香りを識別すること。常識的な認識では音を赤いとか、花はソの音だということはない。

心の流れ（心相続）

- 心は瞬間瞬間で変化する。要するに無常。
- この変化を一つの流れと見ることを心相続という

恋人の浮気を知った時



ものごとは心にもとづき、心を主とし、
心によってつくり出される。もしも汚れ
た心で話したり行ったりするならば、苦
しみはその人につき従う。—車をひく
(牛)の足跡に車輪がついていくように。

ダンマパダ第一偈

この「心」は「意」のこと。「考え」と
言い換えることができる

ものごとは考えにもとづき、考えを
主とし、考えによってつくり出され
る。もしも汚れた考えで話したり
行ったりするならば・・・

ダンマパダ第一偈

少し受け止め方が変わるのでは？

識とは

- 識（認識）とは何か？
- 伝統的に認識には六種類がある。
 - 眼識・耳識・鼻識
舌識・身識・意識
 - 認識には「見た」「聞いた」「嗅いだ」「味わった」「触った」「考えた」の6種があるということ。

認識とは？

■ それでは認識とは何か？

■ にん-しき【認識】 [名] (スル) (デジタル大辞泉より)

1 ある物事を知り、その本質・意義などを理解すること。また、そういう心の働き。「認識が甘い」「認識を新たにする」「認識を深める」「対象を認識する」

2 《cognition》哲学で、意欲・情緒とともに意識の基本的なはたらきの一で、事物・事柄の何であるかを知ること。また、知られた内容。

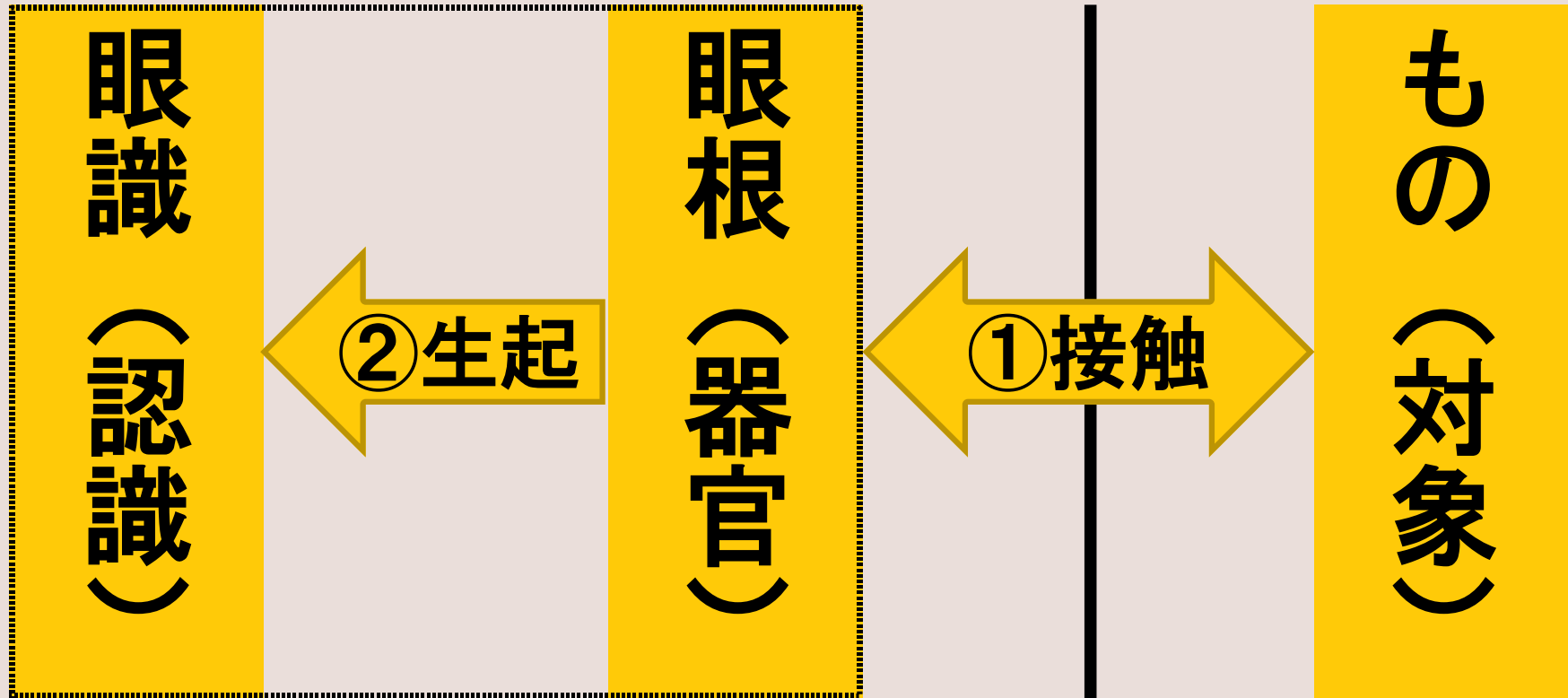
仏教における認識とは

- 識（認識）は根（感覚器官）と境（認識対象）の接触によって起こる表象
- 眼識（見たという認識）とは何か？
 - 見たものについて、丸いとか、赤いとか、四角いとか色や形を判別する。
- 見たり聞いたりしたものを識別することが認識

見るということ①

主観

客観



見るということ②：「色＋眼根＝眼識」

- 外にもものがあり、それが眼（網膜）に映る
- その映像を脳が認識する、これが見るということ
- その他の認識も同様に、対象を器官で把握すると、それについての認識が起こる

唯識入門第一歩

- 外の世界はあるのか？
- 自分が見たものはそのまま存在している？
- 色覚多様性、色の見え方は一様ではない
- 自分が見たものはあるけど、それ以外のものってあるの？（デカルトみたい）

夢

- 夢では寝ているけど、見たり聞いたりしている
- 感覚器官が働かなくても認識が生まれることの一例
- 感覚器官があるから認識が生まれるとは言えないのでは？

我れ思うゆえに我れあり

唯識的には

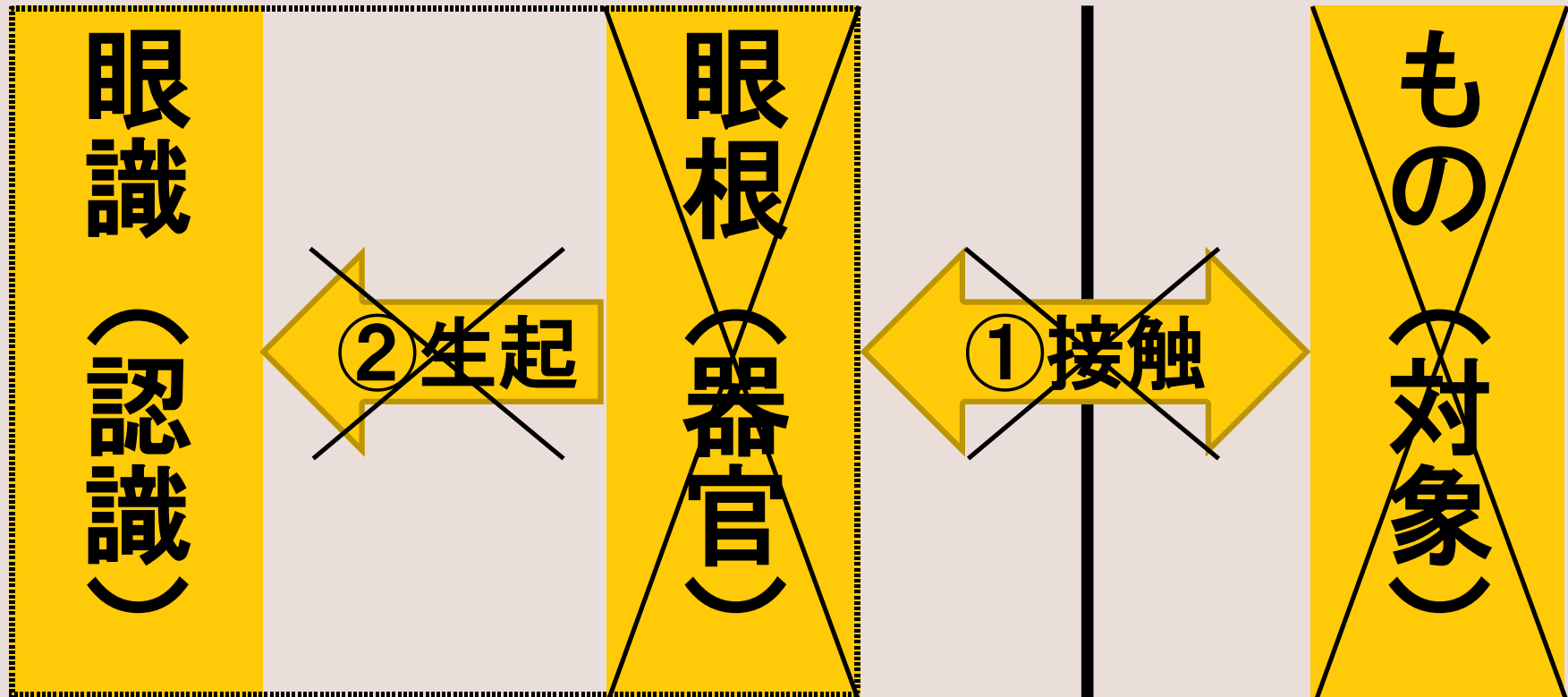
我れ思うゆえにこの認識あり

という感じ

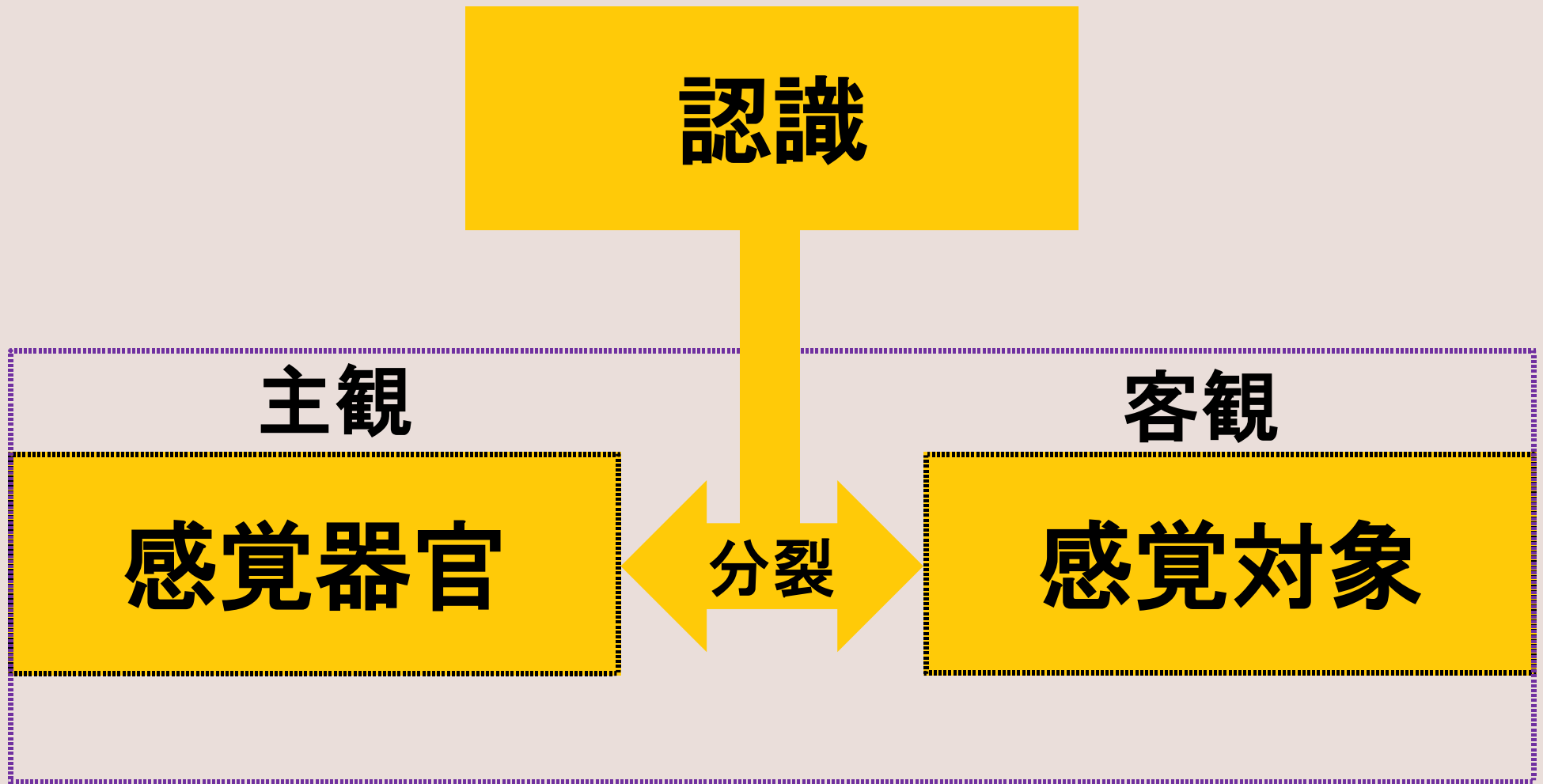
夢での認識：認識のみが存在する

主観

客観



認識を主とした逆転の発想



認識を中心としたものの見方

- 夢であってもしっかり認識は確かにある。
それならば認識のみがあり、認識を成立させる主観と客観は認識が分裂しているのでは？
- 全ては心によって生み出されるものと考えられるのではないか

心とは何か？

- 認識のみがあるとすれば、その「認識」とは何か？
- また認識はどのような働きをして、どのように私（主観）と世界（客観）を作り出すのか？
- 唯識は心の構造と働きを詳細に分析する

おしまい

